

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月23日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22330250

研究課題名（和文） 図画工作・美術科教育における熟達教員の知共有システムの構築と検討

研究課題名（英文） Construction and Evaluation of a Sharing System of Experienced Art Teachers' Knowledge and Skills for Elementary and Secondary Schools

研究代表者

三根 和浪 (MINE KAZUNAMI)

広島大学・大学院教育学研究科・准教授

研究者番号：80294495

研究成果の概要（和文）：

国内外の優れた図画工作・美術科教員が持つ学習指導に関わる知を取材すると共にそれを共有するシステムをインターネット上に構築し検討を行った。その結果、我が国の図画工作・美術科熟達教員は、常に個に向かう授業を行い、状況に柔軟に対応する教育技術を持っていた。具体的には、制作の過程を重視し、共感的な言葉遣いや常に児童・生徒の個と集団の様子をモニタリングすることによって個を引き出す授業を進めているなどがわかった。

研究成果の概要（英文）：

We collected data of experienced elementary and secondary art teachers' knowledge and skills in conducting lessons. Using the collected lesson videos, we constructed a movie-sharing system on the Internet to share the knowledge and skills of those experienced practitioners. From the investigation of those video materials and the interview data, we found that they always conduct individually-targeted lessons and have skills to cope with the classroom circumstances flexibly. In particular, those experienced teachers have common characteristics of emphasizing the process of students' producing art works, giving sympathetic comments and suggestions to students, and monitoring individual students and the whole class all the time, which enables them to bring out each student's originality.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	4,700,000	1,410,000	6,110,000
2011年度	2,200,000	660,000	2,860,000
2012年度	4,600,000	1,380,000	5,980,000
年度			
年度			
総計	11,500,000	3,450,000	14,950,000

研究分野：美術教育学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：熟達教員，図画工作，美術，授業，知，インターネット，動画，フィンランド

1. 研究開始当初の背景

(1) 中央教育審議会芸術専門部会で指摘された芸術教育の課題と改善充実のための方策

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryu/025/06081002/006.htm

平成18年7月28日開催の中央教育審議会初等中等教育分科会 教育課程部会 芸術専

門部会（第4回）配付資料9「芸術専門部会におけるこれまでの主な意見」では、「B 芸術教育の課題」として、「これからの芸術に対応するためには、芸術教育のできる力を持った教師を育てることが課題」、「感性をどう育てるかについて、理念はよいが方法が不明確であり、具体化させることが大切」などが、また「C 芸術教育の改善充実のための方策」として「芸術教育では技能等の指導に傾斜しているようであるが、子どもがもつものを豊かに感じ取ることをはぐくむことこそが大切」などが指摘されている。委員によるこれらの意見は、芸術の教育において教師の指導力が極めて重要であることと、現状においてそれが十分であるとは言えないことの指摘である。したがって、教師が優れた指導の視点と方法を具体的にイメージできるような、教育改善に資するシステム開発を行うことは、混迷する図画工作・美術科教育における喫緊の課題である。

(2) 21世紀型の図画工作・美術科教員像

本研究では、21世紀型の教員を「高度で複雑化した社会の状況に対応し、実践力と応用力、自律的判断力と問題解決能力を備えた図画工作・美術科教育の職能人」と捉え目標像とした。これは、子どもの表現を引き出し、平成20年版学習指導要領における「習得・活用・探究」の指導を実現する教員であり、同時にエリオット・アイズナー(1979)による「教育的鑑識」と「教育的批評」を可能にする教員、またドナルド・ショーン(1983)による「行為の中の省察」に基づいた「反省的实践家」として芸術教育を進めることのできる教員でもある。

(3) 図画工作・美術科教員の授業力を向上させるための方策

優れた教員による指導行動が図画工作・美術科教育における優れた授業でどのように実現されているのかを解明し、その情報を簡便かつ容易に共有できるようにすることが急務である。これまで、次に記したような教育テレビ番組が放映され教育職能や授業改善に示唆を与えている。

<教育テレビ番組で放映された優れた授業>

「びしょびしょから何か生まれたよ ～福岡知子先生の図工～」(『わくわく授業』平成16年放映、NHK教育テレビ)では、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会芸術専門部会委員である大阪市立守口市立春日小学校福岡知子教諭(当時)が授業を行った。そして、小学1年生が造形遊びで発想につまづいているときに、濡らした段ボールを建物の角に使うことなどを助言して児童の発想が広がった。「学校をカサで変身させよう」(『ダビンチの図工室』平成18年放映、

NHK教育テレビ)では、傘を使ってインスタレーションを試みる小学生に対して東京都新宿区立花園小学校の横内克之教諭が少し離れて全体を見るように助言し、児童のアイデアがふくらんだ。優れた実践家は、現実の教育実践場面でいったいどのようにして子どもから表現を引き出すのだろうか。また何を見て学習者のつまづきに気づいたり、どのような解決法を選択したり、どのような助言をしたりしているのだろうか。またそれらはどのような理論を背景にして判断されるのだろうか。番組の優れた特長は、熟達教員の多様で高度な判断の様子が教育実践に即して分かりやすく伝えられた点にあった。しかし、熟達教員が判断した根拠となる理論は明らかでなく、放映された実践数も少なかった。また既に番組は終了しており、新たな情報が期待できる状況にない。

そこで本研究では、独自の取材で得られる優れた授業の知見を概念化するとともにyoutubeなどのインターネット動画サイト上で公開しデジタル・アーカイブ化する。これによって、教員が必要なときにいつでも優れた授業を視聴し優れた授業方法のイメージ獲得ができる教員用学習システムを構築する。システムの利用で、複雑な教育場面に適切に対応できる教員の反省的实践力を向上させ授業改善を実現する。

2. 研究の目的

本研究における当初の目的は、次の3つの柱で構成されていた。

(1) 図画工作・美術科授業における優れた授業の理論的探求

カリキュラム評価でJ.M.アトキン(1974)が「羅生門的接近」と名付け、教室の事実に対し多義的な解釈が可能であることを指摘したように、優れた授業における指導も同様に多様である。現代教育の基礎理念である「生きる力」と「確かな学力」を実現する図画工作・美術科の優れた授業を概念化する。

(2) 我が国の図画工作・美術科授業における優れた授業の取材とデジタル・アーカイブ化

優れた授業を行う熟達教員の指導場面を取材し、どのような視点や方法で学習者から表現を引き出したり、つまづきを発見したり排除したりしているかなどといった指導方法の実態を明らかにする。また授業の参与観察と録画による発話・行動分析から明らかにした「熟達教員の知」を概念化し、それを取材映像にテロップ編集で重ねることによって、インターネット動画サイト上で指導場面のエッセンスを無料視聴できるシステムを構築する。

(3) 外国の優れた授業実践の取材とデジタ

ル・アーカイブ化、指導の工夫の解明
 (2)で示した我が国の優れた授業実践から知見を得ると同様の方法で、PISA 結果により教員の力量が高いと評価されるフィンランドの優れた授業実践から知見を得る。

3. 研究の方法

平成22年度は我が国の表現領域、平成23年度は我が国の鑑賞領域、平成24年度はフィンランドの表現・鑑賞領域の授業実践を取材・検討することを中心とし、それらをデジタル・アーカイブ化すると共に本研究のために構築したウェブサイトから情報発信・共有する。我が国の授業実践については、編集動画を数名の協力者に見てもらい、利用を通して明らかになった情報から、教員にとって望まれる改善点を把握する。これらを踏まえて新たな視点で授業実践をデジタル・アーカイブ化する。

上記した3年間の構造図は図1の通りである。



図1. 研究の全体構造

毎年次繰り返す手順は図2の通りである。図画工作・美術科の優れた授業を検討・選定し取材した後、授業で観察した熟達教員の知の鍵概念を検討・抽出する。それをテロップで映像に編集挿入し動画サイトに登録してデジタル・アーカイブ化する。

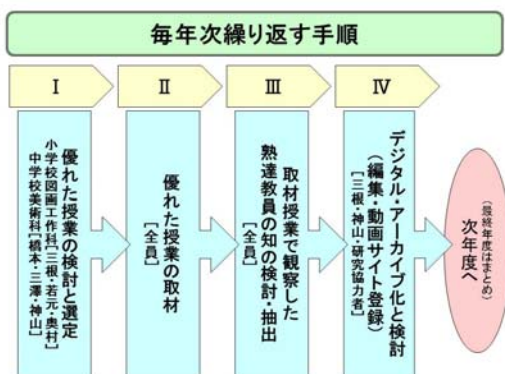


図2. 毎年次の手順

以上の全体計画をふまえ、具体的には年次ごとに次のような方法によって研究を進めた。

(1) 平成22年度は、小学校図画工作科及び中学校美術科の授業を対象に次を行った。

① 東京都、北海道、埼玉県、千葉県、神奈川県、長野県、広島県などの地域において実施された熟達教員による授業や関連情報を取材した。具体的な授業として、「はるはるすてきなぼうし（小1）」「宇宙人の化石（小3）」「箱の中の世界（小4）」「動くおもちゃ（小5）」「未来ウィンドウ（小6）」「さくらびアートプロジェクト（中1-3）」その他があった。

② 取材に当たっては、大きく①導入、②追求、③まとめ、の場面展開に分けた視点による観察を行った。取材後には録画された授業を確認し、優れた授業場面がどのように実現されているかを検討することによって、熟達教員が行っている指導のエッセンスを取材チームあるいは取材メンバー個人で抽出した。

③ 授業者に対し指導の意図や方略などを取材後に面接取材し、「指導することと取捨選択しないことの判別」「製作に係る造形環境の整備」その他、授業実施上の配慮に関わる実践知を得た。

(2) 平成23年度は前年同様、小学校図画工作科及び中学校美術科の授業取材を中心に次を行った。

① 東京都、北海道、埼玉県、熊本県、山梨県、京都府、鹿児島県、広島県など全国諸地域において実施された熟達教員による授業や関連情報を取材した。授業として、小学校では「くるくるカラフル」「コロコロランド」「心へのこったそのことを」「海と少年」「私の感じる初雪の日」「身近かなそざいでつくる生き物」その他、また中学校では「彫刻のイメージを広げる・伝えるカード」「心のいろがみ」その他を取材した。

② 講演会や研究会への参加を通して、授業や教師の知など課題探求に係る情報収集を行った。

(3) 平成24年度は、教育先進国フィンランドにおける大学及び小学校・中学校の美術・工芸（クラフト）教育の熟達教員の授業と我が国の熟達教員の授業を取材調査し、研究のまとめを行った。

① フィンランドでは、フィンランドの教育事情に詳しい人物から「国家カリキュラムとその理念を最もよく実現する教員」を紹介され、小学校美術及び小学校・中学校の美術・工芸（クラフト）の授業を取材調査した。

② 我が国においては、仙台、広島、東京、埼玉その他の地域で熟達教員の授業を観察取材したり、熟達教員と新任教員の授業を取

材・比較したりした。

③ 東京都に於いてまとめミーティングを開催し、熟達教員の知とその具体化の整理を行った。

④ 東京都に於いて熟達教員の知に関するシンポジウムを開催し、小・中・高等学校教員及び美術館学芸員などを対象に4名の研究メンバーが上記(1)(2)(3)などの成果発表を行った。

4. 研究成果

以下、前述「研究の目的」に沿って成果を整理する。

(1) 「図画工作・美術科授業における優れた授業の理論的探求」に於いて、熟達教員は次のような特性を持つ教員と位置づけられた。

① 授業を技能でなく技術として遂行できる。
決まり切った固定的な方法でなく、教育の理論や優れた実践のイメージにしたがって、場に応じて最も適切な方法を用いて子どもたちを指導する。

② 巧い絵をつくらせるなどといった既存の価値観でなく、個人の中の価値観を求めて授業を実施する。

展覧会で評価されるものをつくらせるなどといった価値観でなく、図画工作・美術科の授業を常に個に向かう営みとして認識し、子どもの中にあるものを引き出す授業を行っている。

③ 前記②を実現するために、3M(みつめる、みまもる、みきわめる)を大切にし、自覚的に用いることができる。

作品の「出来映え(うまい・下手)」ではなく取り組み過程を「みつめ・みまもり・みきわめ」て後、過程を重視した確かな評価を行っている。熟達教員は、子どもの「いま」を確実に把握するため、まず「みつめる」、即決即断をせずしばらく「みまもる」、そして慎重に「みきわめ」、適切な「手だて(ほめる・はげます・ひろげる等々)」を実行する。

④ 熟達教員の知として、[教科内容・教育内容の知]×[人間と子どもの知]×[人間性・人格]といった三者のかけ算構造が挙げられる。

熟達教員は、この三者をバランスよく持っていたり、あるいはそのどれかが突出したものを持っていた。とりわけ、最後の人間性・人格といった側面は図画工作・美術科といった開発型の授業では大きな効果があると観察した。

この人間性・人格の側面から児童・生徒の個性を引き出すために、「～だよな」とか「どう?」と話しかける共感的な言葉が整理されて使われていた。

また、常に児童・生徒の個と集団の様子をモニタリングしながら授業が進められていた。

(2) 「我が国の図画工作・美術科授業における優れた授業の取材とデジタル・アーカイブ化」に於いて、取材した熟達教員の授業をデジタル・アーカイブ化した。

(3) 「外国の優れた授業実践の取材とデジタル・アーカイブ化、指導の工夫の解明」に於いて、フィンランドの熟達教員の授業を次のように整理した。

① 工芸(クラフト)教育で観察した授業は、総じて日常生活にある造形課題を解決するといったものであり、芸術としての「アート」を求めるものではなかった。それは「工作」の範疇にある内容であって、求める能力は工作の基礎能力の育成と見受けられた。この指導姿勢に、北欧のスロイドシステムの伝統を見るべきなのかもしれない。

② 美術教育で観察した授業は、「技法をしつかりと教える」「技法を教えるために指導を工夫する」といった姿勢が見られるものであった。技術を基礎とするこの考えは、工芸(クラフト)教育に通じるものであると思われた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

1. 奥村高明「テート美術館「アートへの扉」理論の検討(1)～西洋美術館におけるギャラリートークの相互行為分析を通して～」『日本美術教育研究論集』第46号、査読有、2013、21-28頁

2. 若元澄男「美術(図画工作)科等担当者スタンダード若元澄男の策定ー3H美術教育の具体化に向けてー」『比治山大学現代文化学部紀要』第19号、査読無、2013、65-75頁

3. 奥村高明「造形遊びの記録「四つのポイント」」『初等教育資料』平成25年3月号(No.849)、査読無、2013、46-47頁

4. 三根和浪「内野実践に見える造形環境の整備と教師の力量」『美育文化』第62巻第1号、査読無、2012、48-51頁

5. 奥村高明「協同と個を同時に成立させる学びのデザイン」『教育研究』第67巻・第5号、査読無、2012、18-20頁

6. 奥村高明「座談会「造形遊びの充実と子どもの学び 造形遊びで見える子どもの姿と学習指導」」『初等教育資料』平成23年10月号(No.878)、査読無、2011、66-71頁

〔学会発表〕(計7件)

1. 三根和浪, 熟達した教師の授業から学ぶ～フィンランドの事例を中心に～, 第7回び会 研究会(招待講演), 2012年10月14日, 武蔵野美術大学
2. 奥村高明, テート美術館「アートへの扉」理論の検討(1)～西洋美術館におけるギャラリートークの相互行為分析を通して～, 第46回 日本美術教育研究発表会 2012, 2012年10月14日, 東京都 東京家政大学
3. 三澤一実, 美術教育の現状とこれから - 熟達教員の実践より-, 秋田県高等学校教育研究会芸術部会美術部会, 2012年09月29日, 秋田市にぎわい交流館 AU
4. 奥村高明, 子どもの絵の見方～相互行為分析のまなざし～ Concepts and reality of Children's paintings in the view of interaction, 台湾 高雄市児童藝術教育節教育論壇 基調講演(招待講演), 2012年08月10日, 台湾 高雄市 国立中山大學國際會議場
5. 奥村高明, 造形活動における相互行為分析の視座(3)分析単位としての姿勢の変化と意味, 第45回 日本美術教育研究発表会 2011, 2011年10月16日, 東京家政大学
6. 三澤一実, 校種間の連携における学生の学びについて, 第50回 大学美術教育学会宮城大会, 2011年9月25日, 宮城教育大学
7. 奥村高明・大成哲雄, アート・プロジェクトを通じた大学と地域の連携～松戸中央公園におけるアートパークプロジェクトの実践と分析～, 第50回 大学美術教育学会宮城大会, 2011年9月25日, 宮城教育大学

〔図書〕(計5件)

1. 奥村高明・長田謙一監訳『美術館活用術鑑賞教育の手引き ロンドン・テートギャラリー編』美術出版社, 2012, 124頁
2. 菅 正隆・奥村高明編著『子どもの作品を生かした楽しい外国語活動 図画工作と外国語活動の協働』サクラクレパス出版部, 2012, 128頁
3. 三澤一実(高橋陽一編)『造形ワークショップの広がり』武蔵野美術大学出版局, 2011, 258頁
4. 奥村高明・鈴木陽子編著『イラスト&写真解説でよくわかる!わくわく小学校新図画工作授業 低学年編』明治図書, 2011, 112頁
5. 奥村高明・岡田京子編著『イラスト&写真解説でよくわかる!わくわく小学校新図画工作授業 中学年編』明治図書, 2011, 112頁

〔その他〕

ホームページ等

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/kmine/index.html>

6. 研究組織

(1)研究代表者

三根 和浪 (MINE KAZUNAMI)
広島大学・大学院教育学研究科・准教授
研究者番号: 80294495

(2)研究分担者

橋本 泰幸 (HASHIMOTO HIROYUKI)
名古屋芸術大学・美術学部・教授
研究者番号: 50041190
若元 澄男 (WAKAMOTO SUMIO)
比治山大学・現代文化学部・教授
研究者番号: 50240453
奥村 高明 (OKUMURA TAKAAKI)
聖徳大学・児童学部・教授
研究者番号: 80413904
三澤 一実 (MISAWA KAZUMI)
武蔵野美術大学・造形学部・教授
研究者番号: 10348196
神山 貴弥 (KOHYAMA TAKAYA)
同志社大学・心理学部・教授
研究者番号: 00263658